興津・志和地域　防災便り　第12号

2011（平成23）年1月21日

興津地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会
志　和　地　区　自　主　防　災　組　織

「土砂災害に対する教育プログラム」の２年目の取り組みがはじまりました

１０月２８日　「興津小学校土砂災害に関する授業②」

今回は、土砂崩れがおこりそうな場所の報告と、改良工事が行われている場所の報告。そして、砂防ダムについての実験です。

家の裏などで「よう壁」が完成している場所や、よう壁はあるが古くなっているなど、みんなで、実際に見てきた場所を発表し、よう壁がある場合とない場合ではどうなるか考えました。そして、谷にある砂防ダムは、どんな役割をしているのか実験をしながら調べてみました。

今回は、地元の方々にも参加して頂きましたので、一緒に実験です。

実験道具を、地元の方に手伝ってもらいながら作っていきます。

山折り谷折り、しっかり折って谷を作ります。

おかしを土砂に見立てて、谷の上から流します。

よう壁がない場合は、下の家に土砂が流れ込み大惨事となってしまいました。よう壁がある場合は、しっかりとお菓子の土砂は、止まっています。下の家も無事でした。

さらに、よう壁の場所を変えてみたり、おかしの土砂を流す高さや量を変えてみたり、谷の模型を急な角度にしてみたりと実験は続きます。

この後、みんなで感じたことや感想を発表しました。危険な箇所を理解し、ただの壁ではなくみんなの安全を守っている壁だということが分かったのではないでしょうか。

今回も地元老人会の皆様や、新聞・テレビの報道の方もたくさんおいでて頂きました。

地域と学校をつなぐとてもいい授業になったと思います。

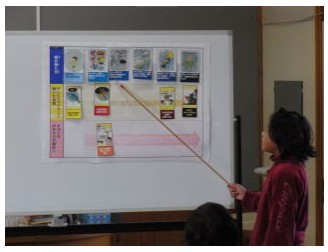
１１月２５日　「興津小学校土砂災害に関する授業③」

今回は、どの状況でどんな行動をするかという課題。２班に分かれてまず、雨の状況を並べていきます。

そのあと、周りからの情報はどんなものがあるか並べます。

班で話し合い、まず状況と周りの情報を完成させました。そして、班の意見をホワイトボードに貼り付けていきます。

自分たちの意見がまとまっていきます。そして班ごとに、なぜそれを選んだか説明していきます。右の班は意見が分かれました。答えは一つではありませんので、意見交換がとっても大切です。



状況に応じた自分の行動を書き、貼り付けていきます。そして、自分たちの意見を発表しホワイトボードに書き込んでいきます。

ところで、バケツをひっくり返したような雨とはどれくらいのものなのでしょうか。今回はタンバリンと BB 弾を使って、音で体験してみました。袋の中にタンバリンを入れ上から BB 弾を勢いよく流します。最初は、ビーカーで 10mm の降水量を実験して音を確認です。徐々に増やして、最後は本当にバケツをひっくり返してどしゃ降りの雨を実験しました。

部屋中にバラバラと音が広がり一時ですが、バケツをひっくり返したような雨音を経験できました。最後に、みんなの意見や実験の結果を含めてもう一度自分の行動を考えます。そして、専門家の意見を聞いて自分の行動で正しいのかどうか話し合いました。

自分で情報を集めそして考える。家族に連絡したり、家族と話し合い避難するかどうかなど、どのタイミングで行動にうつすか。

自分たちの状況に応じた判断ができるか。など大雨に対する基本的な考え方や行動を学ぶことができました。

１１月５日「地震・火災・津波避難訓練」を実施しました。

南海地震を想定しての避難訓練です。

約１００秒の揺れの後、校舎では火災が発生し、さらに落下物が落ちてきて、逃げにくいという設定で避難訓練です。揺れがおさまるまでは、机の下でじっと我慢しています。耐震工事も終わっているので耐えられるはず・・・。揺れがおさまったら、教室に備えてあるヘルメットをかぶり、煙よけのハンカチを口に当てて、先生の誘導で、避難します。煙ももくもくとあがり、上からは落下物と、地面には落下してきた障害物があります。上も下も気をつけて避難します。

そして、津波がくる前に避難所まで走ります。

本当の地震がきたら、道はこんなにきれいじゃなく、壁や家が倒れていてとても走れないかもしれません。

さらに、余震もあるかもしれません。しかし、興津地域の津波最大予想の大きさは約１２mです。そして津波到達時間は地震発生から約１５分後・・・。それまでに、海抜１２m以上のところまで必ず移動しないといけません。避難所入り口、ここから、坂道になります。さあ、あと少しだ１年生もがんばれ　海抜１２mの目印が見えてきました。ここまでくれば、とりあえず一安心あわてず、人数確認。全員が到着するまでかかった時間は７分３０秒、津波がくる前に避難が全員できました。実際は、いろいろな障害物があったりして、倍ぐらいの時間がかかるかもしれませんが、みんな実際の避難距離と時間を体験し、いざという時もあわてずに避難することができる、訓練になったと思います。

防災授業４回目へとつづく